

平成30年度 事業報告書

神戸市立たちばな児童館放課後児童クラブ

1. 《学童保育目標》

- 豊かな遊びや経験を通して、健やかな育成を図る
- 保護者、地域社会との連携を図り、よりよい子育て環境作りを行う

2. 《平成30年度目標》

- 児童一人一人と丁寧に向き合う
→信頼関係が築けるよう、たくさん関わり、楽しいことを共感した。
- 安心して学童保育を利用できるよう、保護者との連携作りに努める
→小まめに連絡をしたり、お便りを配布して理解を深めた。

3. 《指導内容》

- ① 健やかで安全な環境作りに努めるとともに、限られた場所と時間の中で自立を支援する指導を行ったり、人間関係が円滑にいくよう指導を行った。
・学習支援・おはなし会・けん玉遊びの推奨・おりがみ教室
- ② 学校や地域と連携を密に行い、子どもの安全確保・自立支援に努めた。

4. 《年間行事》

4月	新入生歓迎会
5月	楠北まつり参加
6月	七夕飾り作り
7月	たちばなカフェ 夏祭り
8月	サマープログラム（工作、ゲーム） 交通安全指導 ビデオシアター 高齢者との交流会 地域こども神輿参加
9月	運動遊び
10月	ハロウィンパーティー
11月	クリスマス飾り作り
12月	クリスマス会 清風児童館お楽しみ会参加 たちばなカフェ
1月	かるた大会 けん玉グランプリ 地域防災訓練参加 新入会資料配布
2月	地域文化祭参加
3月	お別れ会 入会説明会 遠足 共同募金街頭活動参加 たちばなカフェ

5. 《月間行事》

誕生日会・けん玉検定・おりがみ教室・おはなし会・みんなであそぼう

6. ≪初日在籍数≫

	1年生 (人)	2年生 (人)	3年生 (人)	4年生 (人)	5年生 (人)	合計
4月	34	44	16	14	2	110
5月	34	44	14	13	2	107
6月	33	43	13	13	2	104
7月	33	43	12	12	2	102
8月	33	43	11	12	2	101
9月	32	43	10	11	2	98
10月	32	43	10	11	2	98
11月	33	43	10	11	2	99
12月	32	42	10	9	2	95
1月	32	40	9	9	2	92
2月	31	40	9	9	2	91
3月	31	40	9	8	2	90
合計	390	508	133	132	24	1187

7. ≪防災・防犯訓練≫

火災・地震・防犯の何れかの訓練を、月1回以上行った。

総合福祉センターや地域の防災訓練にも参加した。

月日	訓練の種類	参加人数
4月4日	火災訓練	69
4月23日	防犯訓練	82
5月16日	地震訓練	72
5月21日	防犯訓練	79
6月20日	火災訓練	78
6月25日	防犯訓練	75
7月18日	地震訓練	71
7月23日	防犯訓練	75
9月19日	地震訓練	69
10月17日	火災訓練	68
10月25日	火災訓練（センター訓練参加）	70
12月19日	火災訓練	69
1月19日	避難訓練（地震、津波）…地域の訓練に参加	18
2月18日	防犯訓練	58
2月19日	火災訓練（センター訓練参加）	61
3月19日	火災訓練	58

8. 《会議》

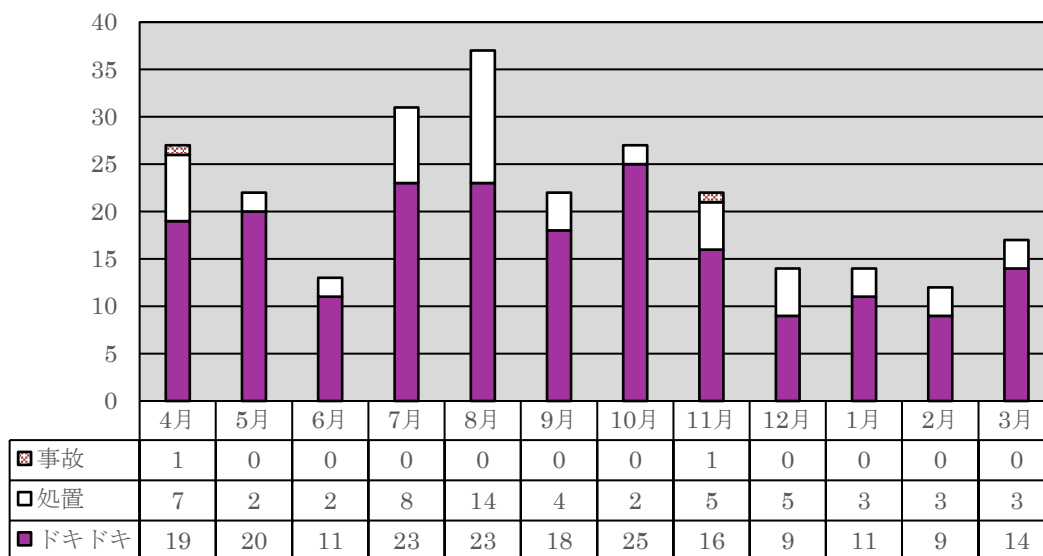
毎月職員会議を行った。児童について・児童の関わり・作業手順の統一・学童保育の約束事の共通理解・問題点や改善点・湊学童保育コーナーの準備について話し合った。

9. 《リスクマネジメント報告》

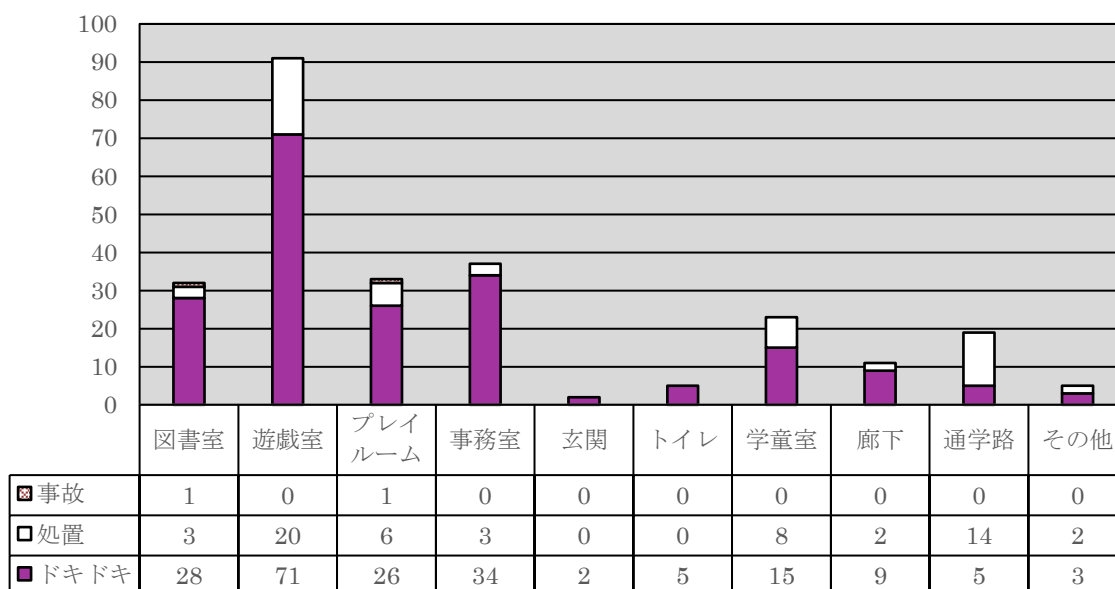
※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

報告件数 合計 258 件（ドキドキ 198 件 処置 58 件 事故 2 件）

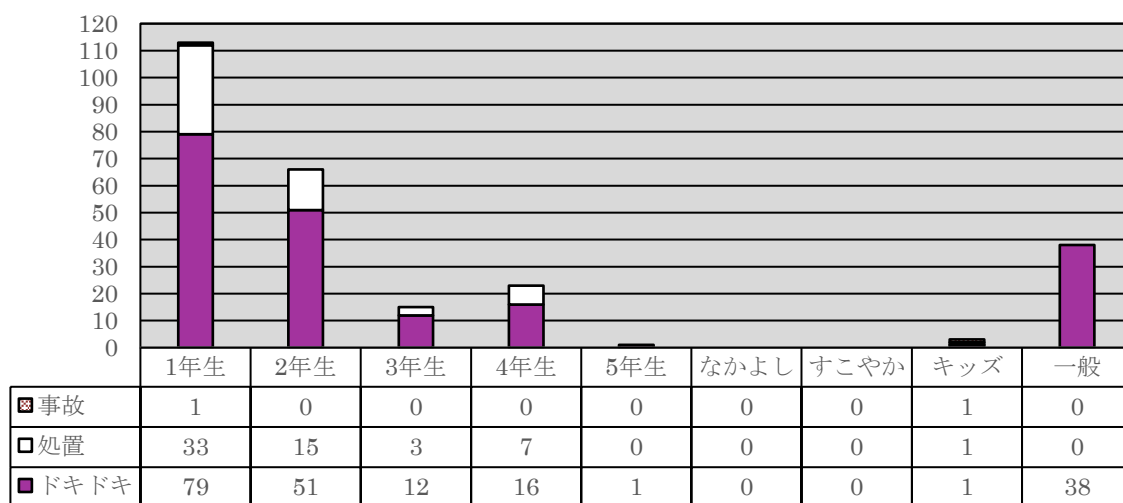
① 月別発生件数



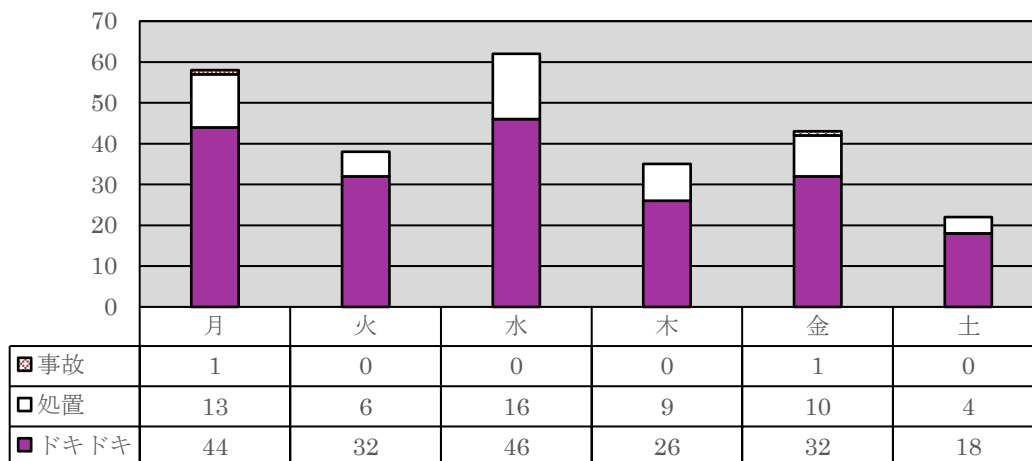
② 場所別発生件数



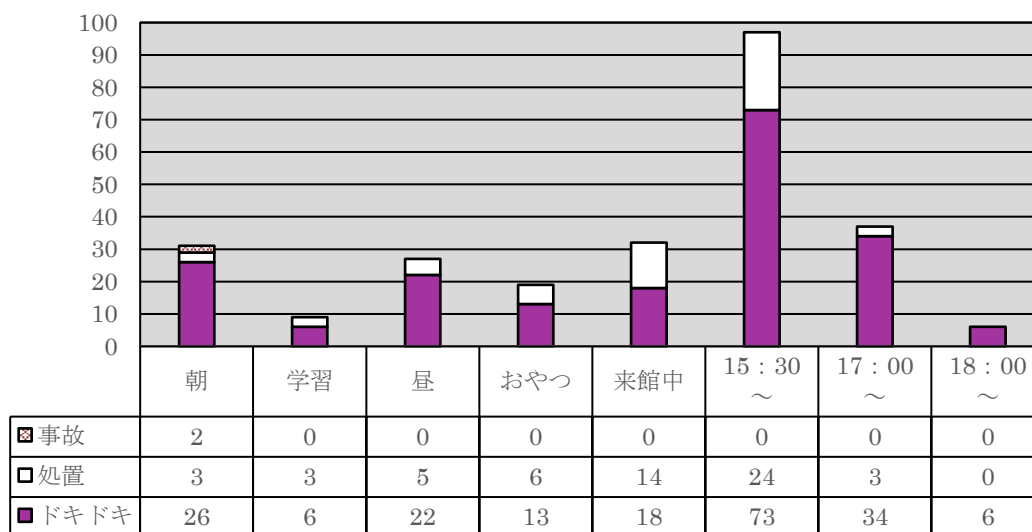
③学年別発生件数



④曜日別発生件数



⑤時間帯別発生件数

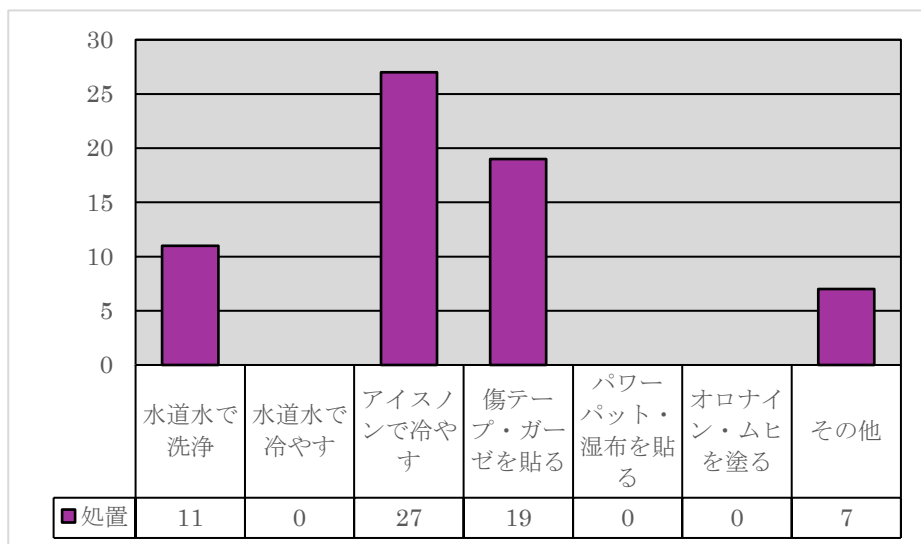


⑥事故発生内容

→発生件数 2 件だった。

- ・前を見ずに室内を歩いていたら、玩具を持った他児にぶつかり、前歯を玩具にぶつけた。
…歯科を受診。異常無し。
- ・キッズクラブにて母親が飲んでいたホットコーヒーを、一緒に連れてきていた 0 歳児が倒し、腕にかかり火傷をした。
…患部を水道水で冷やし、保冷剤を当てて病院を受診。
後も残らず、きれいに治るとの診断。
再発防止の為、保護者の使用するコップを蓋付き紙コップに変更し、温度も下げることにした。

⑦処置内容



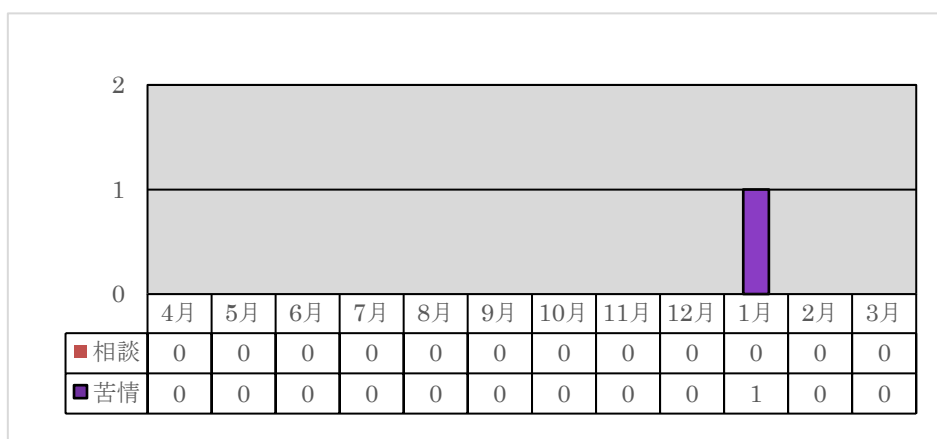
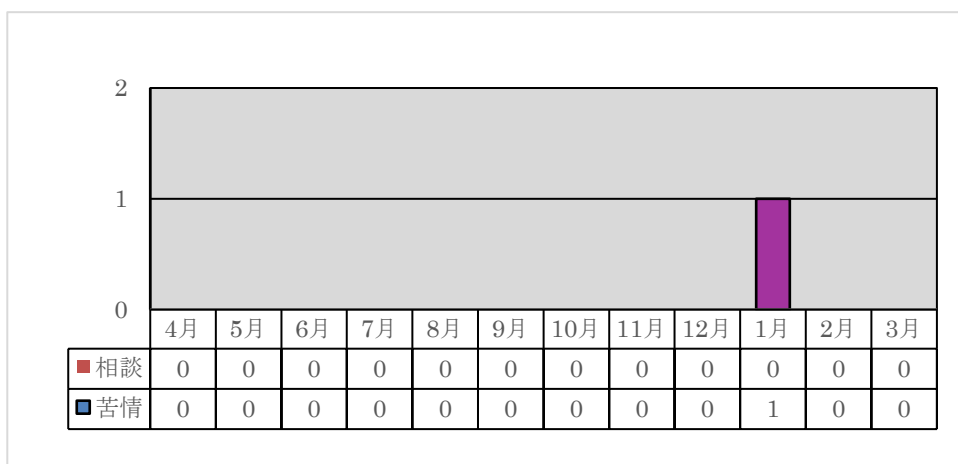
⑧まとめ

学童保育の時間に多く、学年が低いほど危険と感じる場面が多い。
遊戯室で遊んでいる時、児童同士のぶつかり、ふざけあって勢いが余ることが多い。
遊戯室での遊びや児童同士の関わりは大切だが、トラブルが多い場所であることを職員全員で認識し、怪我に至らないように見守り、援助する。

10. ≪苦情・相談結果報告≫

苦情の定義→館長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・1件（苦情）



○まとめ

年間を通して件数自体は少なかった。職員の確認不足によるものであった為、思い込みで行動することの無い様にする、複数の職員で確認することを徹底する。

1 1. 《総括》

地域の児童数が前年に続き増えており、学童保育の登録児童数が前年度より更に増加した。過密な中で過ごすことで、もめ事が起きることが多かった。また、その場で気付くべきことを見落としていたことがあったので、子どもへの約束事と共に、職員の資質向上と環境整備が必要であると実感した。

高学年が学童保育を利用することが増えてきた。したいことが見つからない児童に対して十分な提案ができていなかった。高学年児童についてより学び、児童自身が考えて活動ができるようにするなど、満足感を得られるように考えていく。低学年とも一人一人と十分関わり、児童にとって大好きな場になり、自分を出せる場になるよう努めたい。

言葉が乱暴な児童や、室内で暴れている児童も多いので、躰も大切にしていきたい。児童が伸びやかに成長でき、時代のニーズにも対応できるよう職員全員が研鑽し、資質向上を図っていきたい。